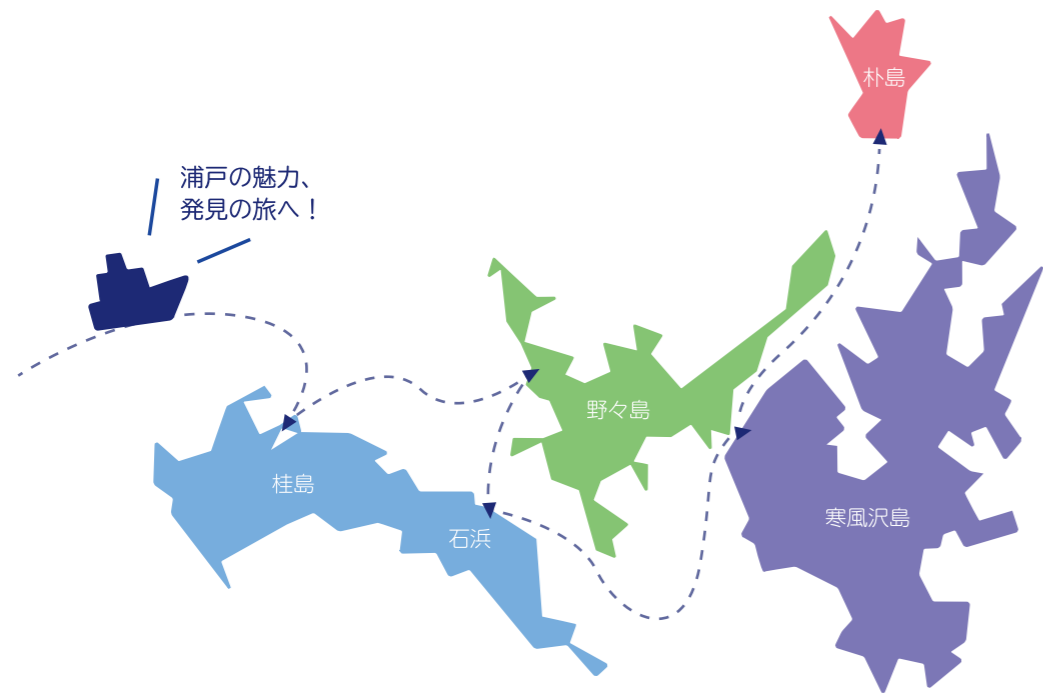


ぽかぽか
浦戸





浦戸の魅力って、 人だったんだ。

浦戸諸島は桂島・野々島・石浜・寒風沢島・朴島の4島5地区で構成され、そこには約280人の島民が暮らしています。
浦戸諸島の魅力は、豊かな自然や長い歴史だけではなく、浦戸に住む島民の、温かい人柄もその一つです。
今回は各島にお住まいの10名の方にインタビューを行い、これまでの人生や浦戸諸島に対する愛を語っていただきました。
浦戸が好きなお方にも、初めて来る方にも、島民の方にも、様々な人に読んでいただきたい1冊となっています。
浦戸の人の温かさを本誌で、そして現地で感じてください。
(人口：令和5年9月30日現在)



- 15 川畑俊夫さん | 男はつらいよ |
- 13 川畑雪江さん | 浦戸の恋愛マスター |
- 11 内海せつこさん |
- 4 朴島
- 09 土井まゆみさん |
- 07 鈴木和子さん | 寒風沢なかよし三人衆 |
- 05 鈴木小夜子さん |
- 03 青野友樹さん | 脱サラして漁師に |
- 02 寒風沢島
- 01 鈴木正徳さん | 浦戸のスーパースター |
- 05 野々島
- 03 内海信吉さん | 浦戸愛! |
- 01 桂島・石浜
- 05 鈴木保さん | 浦戸のハチ公 |

※内海せつこさんは桂島在住です。



浦戸愛！

浦戸愛に溢れる信吉さんですが島が嫌いだった時期もあったようです。島や信吉さん自身について、親切に教えてくださいました。

-桂島-
内海 信吉 さん

— 島の方々に呼ばれているニックネームはありますか？

『のぶさん』、たぶんそうだと思う。

— 子供のころからずっと住んでいらっしゃるのですか？

うーんとね、1年だけ仙台に住んでたかな、学生で。ちょうど宮城県沖地震があった年。住んでたところが、土台から外れてガタンとね。島に来るしかなかったって思って。

— 宮城県沖地震がなければずっと仙台に？

多分。俺もともと島嫌いだったんだよ（笑）。船酔いするから嫌いだったのよ。今はね、船酔いする人に冗談で言うんだけど「んだらいいねえ、酒飲まないで酔えるんだからね」って（笑）。

— 島を好きになったきっかけはありますか？

ある。いろんな人と接する機会があって、浦戸の良さが分かったのよ。自分の船で人乗せていろんな所を案内するんだけど、俺は洞窟とかをケイビング（※）するわけよ。遊覧船では体験できない、本当に海にタッチできるような感覚で地形だったりを見に行く。そういうのって、自分たちしか教えることできないんだよね。あと考えてみれば、みんなこっちに来るのにさ、お金かけてこなくちゃいけないんだよね。俺はそういうところに住んでるんだから、凄いいことなんだって。

— お仕事以外で何か趣味はありますか？
ずっと編み物してたの。毎日1つずつ作って編んでる。

— 浦戸のおすすめのポイントはありますか？

俺たちよく聞かれるんだけど「なんで島に住んでるの」って。俺は、「いやあ、俺は島の方がいいと思うんだ。」って言う。最初は、なんで島なんだって思ってたけど、今は島だからここにいられるんだって思うなあ。時間があって退屈だったら、ふらふら歩くだけでもいい。

— よそ者としては、最初来たとき、船からもう楽しくて。島に着いた時も、「探検できる！」ってワクワクしちゃいました。

普通は航路が決まってるんだけど、干潮の時は同じ料金で長い時間乗れるのよ。でも島の人に言わせると時間もったいなえって（笑）。考え方1つなんだけどね。

— 浦戸が地域としてどういう場所になってほしいと考えてますか？

うーん、『癒し』。それから、俺は卑しいよ（笑）。みんなが来てよかったなって思えるような島になってほしい。

— 地域として『癒し』になってほしいということでしたが、今、信吉さんにとって浦戸諸島はどういう場所なのか気になりました。

うーん、『基本』。今となってはここに住んでよかったです。

— なくてはならない場所という感じですか？

俺はここだから生活できるっていうのもあるし、なんもないんだけど飽きない。なんか暇だなーっていうと、猫の進次郎くんが来てくれたり（笑）。考えてみれば、周りの海で仕事できて生活してるわけだから、恩恵を受けてるじゃない？ それをおいしく食べてくれるお客さんと知り合ったりさ。で、自分でこういうところあるんだよーって案内して、喜んでもらったり共感してもらったり。俺は朝晩散歩するんだけど、玄関に野菜とかゴロンって置いてあったりさ。凄いいんだよ。俺キャベツ4個つけて貰ったことあって、最初の人は普通にキャベツ1個。次の人は、持ってくる前に「あんだ、キャベツあつか」って。「ある、昨日貰った」って言ったら「そうか、じゃあ半分やっから後で持っていくから」って。そして、その半分が前の日に貰った1個より大きいんだ（笑）。

※ケイビング：洞窟内を探検するアウトドアスポーツ

浦戸は基本。





浦戸のハチ公

以前は民宿を営み、現在はステイステーションに勤務している保さん。
優しさ溢れる保さんのお家は、みんなの集まる場所です。

-石浜-
鈴木保さん

—現在の保さんの楽しみは何ですか？
楽しみは飲むことか（笑）。楽しみはいろいろあるけどテレビ、スポーツを見たり。あとは、歌が好きだからラジオは欠かせないね。イヤホンでラジオ聴いて。

—浦戸諸島のおすすめはありますか？

ここは海苔と牡蠣が特産でさ。海に関しては魚とか、魚介類は豊富に獲れるからね。だから、食べるだけなら全然問題ないわけよ。今テレビでやってる自給自足もできるくらいにさ。畑とかも結構、俺らはやってないけどさ、やってなくてもおすそ分けで貰ったりするわけよ。この島だけでなくて、野々島、寒風沢、朴島だってある程度、顔と名前がちゃんと繋がってるから、何かあった時に頂いたりおすそ分けをしたりしてんのよ。

—私の地域では、そのような関わり方があまりないので羨ましいです…。

—やっぱり街の生活とは違うよ（笑）。

—お茶飲みのような交流も多いのですか？

うん。みんな来るわけじゃないけども、気の合う人たちが来る。たまり場なの（笑）。

—それだけ温かいお人柄だから…。

—あつたかいよ、心は（笑）。まあそれは冗談で、うちの母ちゃんの心があつたかいからなんだよね。

—他の島との交流について教えてください。

たいてい顔と名前も分かるからね。4島5地区でいろいろ行事とかやってたんだけど、毎年敬老の日の時に、センターで70歳以上を対象にした敬老のお祝い会だのやってたの。全島の対象者で、それがこの頃やらなくなっただっていかさ、震災後ストップした状態なんだけど、いろいろやってたの、イベントはさ。約1日ばかりで。そんな時に各島のお年寄りが集まって、そば食べたり、民謡聴いたり、踊ったり。結局、浦戸諸島の住民は高齢化の比率が高いみたいなんだ、塩釜市内でもさ。だからここでは敬老の人が敬老を祝うみたいなきんじでね。

—そういったイベントがなくなってしまったのは残念ですね…。

やっぱり、敬老会とか1つのイベントがなくなるっていうのは寂しい感じはする。今まであつたのにね。でも、1つ何かをするのって大変なのよ。準備とかね。会場設営も、会議して段取りすることも大変なことなのさ。人もいなくなってきたし、若い力が少なくなっってしまったね。子供はね、若い子はほんとにいないんだ。今は野々島に小中学校があるんだけど、この島に住んでる小中学生は誰もいないから。近辺の塩釜とかね、仙台とか利府、多賀城のところから来てるのよ。

慕われるように、長生きしたい。



浦戸のスーパースター

優しくて明るくて面白くて親切で…。全てが完璧な正徳さん。
フレンドリーな魅力が多くの人を惹きつけます。

-野々島-
鈴木正徳さん

— 職業は何をされていますか？
今はみちのく潮風トレイルっていう、八戸の蕪島から相馬までの1025キロの被災地を巡る旅があって。それと渡船やってるの。色んなことを少しずつ勉強して、島のことを説明してる。

— 船に乗るお客さんに説明するんですか？
そうそう、お客さんに。あと時間あれば、渡船に乗せたときに、「これ何だか分かる？」とか言ってる、数分の間だけでも説明してるの。面白く、浦戸好きになるようにね。

— 潮風トレイルの活動の中で、印象に残っているエピソードを教えてください。
いっぱいあるよ。静岡出身で今東京に住んでいる人がいるけど、この方は5年後に必ず来るって。ところが10日経って連絡が来て、もつと早く会いに行きますってメールが来た。ずっとトレイルしていて一番楽しかったって言われた。あと、岡山の人也会いたって言ってね。いや、不思議なんだよ、岡山の人とフィリピン人があの坂で会ったんだって。トレイルって結構すぐ友達になるから、このフィリピン人が「正徳船長という人に私乗せてもらって、とっても詳しく面白く説明していただいて、とっても良かった」って。そしてこの岡山の方が私に当たって。「正徳船長のことお話ししてた」って言われて（笑）。

— すごい、評判がいろんなところに！

だからありがたいって言ったの。あと結構渡船の時には、一緒に写真撮らせてくださいって。名前も聞かないのね。写真撮って、石浜から野々島に渡ったとき、いろんな説明したのさ、同じような説明だったかどうかかわかんないけども、本当に楽しかったって（笑）。ゆっくり走って10分ぐらいゆっくり話したのかな。楽しかったって。こんな感じで結構ね、楽しいことはいっぱい。

— 趣味はありますか？

山野草好きなんで、鉢で育ててる。サギ草って分かる？これ見て、山野草好きになったの。サギが飛んでるみたいな見た目の。人が作ったみたいなんだよね。これ見てびっくりしたもん。それから育てて今年も結構咲かせたんだけどね。あと、花瓶とか花立てを作ったりもしてる。その辺の投げた竹を切っただけで、枝を曲げて。結構ね、かっこいいんだよ。かっこいいって、自己満足。あと、車も趣味。さっきはバイクを直してた。

— お花から車まで！趣味が幅広いですね。

あー広く浅く（笑）。

— お仕事以外も充実していますね。

仕事も、トレイルも、この渡船だけでも、やっぱりせっかく浦戸に来ていただいたんだから、

とにかく良い印象を与えたいし、自分も楽しまないと伝わらないんで、それはもう昔から思っていた。だから自分も楽しみながらお客さんに楽しんでもらおう。

— 浦戸の好きなどころは何ですか？

野々島は付き合ひ方、人間性がいいと思うよ。みんな年齢関係なく仲良し、上も下も。

— 正徳さんのように、優しくてフレンドリーな方がたくさんいるんですね。

野々島の協和会ってあるんだけど、協和会。野々島の『の』ってあるんだけど、桂島も寒風沢も野々島の協和会に入ってきてくれてありがたいよね。あと平成元年からやってる花火大会も思い出に残っているね。花火が本当数発だったんだけど、ものすごく大きい花火で、そのとき、俺舞台の上で涙流したの。花火を元年に上げたやつが、平成2年の年に海で亡くなってしまっただけで、それで弔いだったこと、それからもうずっと。まず、数多くの人に帰省してもらって花火を楽しんで先祖の供養、ここでしてもらえればいいなっていうあれで、今まで続いている。35年。

自分も楽しみながら。





寒風沢なかよし三人衆

漁業や畑仕事など、マルチに働く仲良しな女性お三方。
お仕事や島ライフのリアルについて、教えてくださいました。

〔右〕 -寒風沢島-
土井まゆみさん
〔中央〕 鈴木和子さん
〔左〕 鈴木小夜子さん

―島の方から呼ばれるあだ名はありますか？

小夜子さん ないよな。そのまんまだよな。

まゆみさん 苗字が同じ人が多いから、下の

名前だね。

まゆみさん でも『ちゃん』付けることが多い

いかな。さっちゃんとか。

和子さん いや、ばーさんでない？まあ、ばー

さんだけだね(笑)。

―漁業のお仕事以外で何かやっていることは

ありますか？

小夜子さん 畑畑。

和子さん 上手だよ。売ってもいいくらい。

小夜子さん 売ったもんな。

―毎年売っているんですか？

小夜子さん うん。あの生産者組合でな、な

にか声掛けられた時は売ったよ。売ったばっ

かしたね。

和子さん そうだね。

―自分でも食べてかつ売るんですか？

小夜子さん 有り余るの。あんだらさ、わけ

てやってもいいけど(笑)。

まゆみさん ほら、この人たちは商売じゃな

いから。子供や孫にやる分を作っているから。

小夜子さん そうそうそう。

和子さん 私もいっぱい頂くもん。

―他の皆さんもそういう感じですか？

小夜子さん みんな同じよ。

まゆみさん 大体みんな畑ちよこつとやって

るね。自分で食べるくらい。

和子さん もう少ししたら牡蠣剥き始まるよ。

まゆみさん ここは何も売ってないからね、

店が無いから。買い物に行くけど、みんな自

分たちで出来ることはやってる。

小夜子さん 野菜重いから、外から持ってく

るの大変でしょ？だから作ってるの。

和子さん (笑)。

小夜子さん 重いべー？

和子さん でもね、嫌いな訳じゃないから。

自然とやってるの。

―島の外にはよく行きますか？

小夜子さん しょっちゅう行きます。

和子さん 病院に買い物に。それもだしさ、

小夜子さん車4台あるの。金かかっているん

だよー。

小夜子さん そう、お金かかるのここ。船も

あるし。お金ないとダメ。だから働かなきゃ

ダメなの。

和子さん 草刈り機とか、みな買わなきゃダ

メだしさ。

―皆さんが寒風沢島に初めて来たときはどう

でしたか？

小夜子さん 山の中から船で来たからな。海

がいいなと思っただけど、今は海いらな。

まゆみさん 震災でここも直したから。みん

なだめだったから。

―これからのことについて教えてください。

小夜子さん 将来もないよ。でも変わらずこ

のままでもいいけども、一人になったら…。

和子さん いられないな。

小夜子さん 元気なうちはいいけど、ちょっ

と何かあったら大変だと思う。

自然とやってるの。





— お仕事以外ではどういうふうにご過ごししていますか？

— どういう過ごし方…。島にやっぱりお店がないので、ショップとか、食料品買いに出たり…。そんな感じですね。家にいるときは、インターネットは使えるので、映画見たりとかしますけど。

— 浦戸の好きなところを教えてください。

— ストレスがないかな。結構自由。自由っていうか何か、警察とかもないし、街だとタバコするのも場所限られてるけど、そういうのがなくて、かなり自由で。

— 最後に、これからの目標を教えてください。

— 魚が獲れない上に安いので、魚の獲り方とか勉強したいですね。

逆に、アナログの仕事に。



-寒風沢島-
青野 友樹さん

脱サラして漁師に

お仕事中にも関わらず、快く取材に応じてくださいました。優しい笑顔も、真剣に取り組む姿勢も、全部素敵でした。

— カニがいっぱいいますが、カニ専門の漁師さんなんですか？

— いや、なんでもやりますね。

— お仕事はいつからされていますか？

— 5、6年前ですね。

— 島に来たきっかけを教えてください。

— きっかけは脱サラして何か自分で仕事したいなって。たまたまこの船使ってた人が、やるなら譲るよ、みたいな感じだったので、漁師をやることにしました。

— 元々漁師さんという職業に興味があったのですか？

— 元々興味はないっすね。ないですけど、比較的スマホとか携帯とかパソコンとかそういう仕事してたので、逆にアナログの仕事に。

— なるほど。実際に、アナログの仕事をしてみてどうですか？

— その働き方は自分で決められるので、明日休むとか、自由に決められる点ですごくやりやすいんですけど、まあそんなにお金にはならないですね。

— 私もそういう、デジタルから離れたところの生活に興味があるので、お話を聞いて面白いなと思いました。

— でも一次産業稼げないっすよ。



仲間がいるから、
頑張れるんだよね。

— ちょっと置いて返信するんですね。
雪江さん そう！そういう謎めいた部分をね、
見せるいつも新鮮なわけよ。
— 雪江さん、絶対モテますよね！
雪江さん いやいや、モテないからこんなと
こ来たんだべねえ(笑)。こちらの奥さん(せ
つこさん)は昔巫女さんだから。すごい利口
な方だから。
せつこさん また随分(笑)。
雪江さん 透視するあれがあるからね、でき
たお嫁さんなの。旦那さんを大事にする鏡の
ようなお嫁さんだから。
せつこさん 随分褒めてくれたっこだ(笑)。
雪江さん ほんとだもの。こういう奥さんも
らった旦那さんは幸せさ。私みたいな歳とつ
てからのお嫁さんは何も分かんないで来てる
から。だって、今までこういう軽いグラスし
か持ったことないし、ハイヒール履いて。そ
れが今じゃ、長靴の似合う女になっちゃった。
でもやっぱりこういう仲間がいるから頑張れ
るんだよね。
せつこさん そりゃそうだね。
雪江さん 言いたいこと言ってるね、苦労話う
かがって。そして、旦那たちいなくなったら
ガーンと悪口言ってるな(笑)。

④ - 朴島 -
川畑 雪江さん
④ - 桂島 -
内海 せつこさん

浦戸の恋愛マスター

朴島で出会った、優しさとユーモア溢れる雪江さんとせつこさん。
若者たちへ、恋愛の極意を語っていただきました。

雪江さん あんたたち若いんだからいっぱい
恋愛しなさいよ。いろんな人を見て、お付き
合ひして。惚れた男と一緒にいるのが一番。
惚れられちゃだめなんだよ。
— 惚れられるより、自分から惚れたほうがい
いということですか？
雪江さん 当たり前。なんぼ惚れられたって
好みの男でなかったらどうするの？自分から
惚れるってことはほんとに好きになるってこ
とだから。後悔しないじゃん。3回目までが
勝負なんだから。

— 3回目？

雪江さん やっぱりね、60%仕留めて、謎
めいたところを見せないとだめよ。「私はこう
いう女です！」って全部出しちゃうと、男の
人ってというのは飽きるから。謎めいたところ
に魅力感じて追っかけるの。男っていうのは
狩人とか漁師のように、いつまでも追いか
けたい動物なの。だから全て出さないこと。こ
ういう勉強いいのかな(笑)。LINEでいえば、
事細かに長いLINEだったなら嫌われるからだ
め。もう、「え、どうしたの。あ、そうなの。」っ
てポット。そうしていると男の人は「え、なん
だ…」と謎めきがそこで。あと10回に2回
は「ちょっと忙しいからごめん。」って。そう
いう駆け引き。そんでき、LINE来たからっ
てすぐバツと返信するんじゃないで。



やる気になつてやれば、
生活は困らない。

人数も少なくなつたわけ。4人でやってんの、寒風沢で。前は30人以上いたんだよ。牡蠣屋さんは。この島で商売して生活するのには、やっぱり牡蠣と海苔だから。あとアサリだね。あと種牡蠣だな。ホタテの殻さ種を付けてね。今、日本全国に出荷してんの。九州から北海道まで。

—種を出荷しているんですね。

そう、これやないと牡蠣が獲れないわけ。食べたことあつて？生の牡蠣。牡蠣の他には、まあ今はあれだけど、ここは菜の花で有名だっちゃな。ここで菜の花作ってんのは、今は一軒だけだ。小牛田から来てる渡辺採種所がここさ来てる。渡辺採種所って有名だっちゃ。ここで種を採ってるわけだ。白菜の。仙台白菜ってやつ。



—朴島—
川畑 俊夫 さん

男はつらいよ

素敵な笑顔で、生き様を熱く語ってくださった俊夫さん。
取材時には学生に飲み物をプレゼントしてくださりました。

—何か趣味はありますか？
趣味？女の人。

—書きちゃって大丈夫ですか？
いいよ、書いたって（笑）。

—昔からですか？
うん、昔から。

—子供の頃について教えてください。

ここで生まれたんだけど、ずっとここに居たわけではないんだ。遠洋漁業で、20何年まで朴島には居なかったから。アラスカだの、カナダさ行ってたんだ。あとロシアだの、ウラジオストクとか。だからうちにあまり居なかったわけ。中学校卒業するまでは島で、卒業してからずっと遠洋漁業さ行ってたね。この商売始めたのも40歳過ぎてから。うちの親父の家業を継いだのよ。俺の弟は、俺が船やってたときはお母ちゃんと一緒にやってたわけだけど、船やめてからはお互いに独立してやってるのよ、牡蠣だね。だから、ここでは今牡蠣の種付けやってんの。前はここに牡蠣の処理場があったわけ。だけど震災で建物が被害受けてしまったから。歳取った人は半分くらいで。若い人たちは（処理場がなくなったこともあって）居なくなっちゃった。それで、ここにあった処理場は解体して。寒風沢に処理場を新しく建てたわけだ。ただ、

—浦戸が発祥の地と聞いていました！
そうそう、それぞれ。それがこの種。前は浦戸諸島でほとんど菜の花だの栽培してたんだけどよ。ここ朴島が一番最初に種を採ったとこなんだって。大正時代あたりから。浦戸

の中ではここが一番温暖ってのもあって。隣の島の寒風沢は漢字からも分かるけど、確かに冬になると寒い。

—近いのに、気温は違うんですね。
菜の花をみるなら5月の連休に来ないとだ。4月の末から5月の連休あたりが一番いい。一応菜の花はまだ面影あるから。

—雪江さんも「菜の花腐れてっから」と言っていました…。
言ってるっぺー雪江（笑）。雪江と同じこと言っちゃった。まあ、あとはここさ来たって何も無いんだぞ。

—浦戸の好きなポイントは何ですか？
べーつになんも。でも食べ物だったって海も山もあるからね。畑では野菜だの結構採れっからさ。海のもの、自分で食べるくらいは牡蠣とか魚はいつでも獲れる。やり込むんだつたらアナゴ釣りだのハゼ釣りだのさ。ただ我々は暇ないからやらないけど。なんでもやる気になってやれば生活は困らないんだよ。まあ島だから、いくら不便ってのもあるんでねえかな。

編集後記

菊地 彩華 担当：撮影

初めて浦戸諸島を訪れたのは今年の6月。ここから約半年間、浦戸諸島を訪れる中で素敵な方々に会い、浦戸の皆さんの元気と優しさに触れ、浦戸諸島が自分にとってかけがえない場所になりました。読者の方に浦戸の温かさが伝われば幸いですし、「ぼかぼか浦戸」が島内外での様々な交流のきっかけになれば嬉しいです。最後に、浦戸諸島の皆様、本誌作成・設置にあたりご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

高橋 里緒 担当：デザイン

浦戸諸島を訪れるたび素敵な島民の方との出会いがあり、どんどん浦戸が好きになりました。取材中もとても楽しく、浦戸に住む人生の大先輩から様々なことを学ぶことができました。本誌が島民と島民を繋いだり、島民と外にいるご家族を繋いだり、島民と観光客を繋いだりするきっかけになればうれしいです。私たち学生を温かく受け入れてくださった島民の皆様と、冊子の設置にご協力いただいた皆様に、改めて感謝申し上げます。

酒井 梨玖 担当：取材

顔を合わせると、いつも笑顔で話しかけてくれる島民の方の姿が印象的でした。実は、本誌を作成した私たちのチームは、今年結成されたばかりでした。物事が難航することもありましたが、お互いの強みを生かし、そして島民の皆様の温かさに支えられ、冊子を作成することができました。今回ご協力いただいた皆様には心より感謝申し上げます。読者の皆様には、どうか最後まで読んでいただき感想をお寄せいただけたらと思います。

南 晴日 担当：取材

本誌を作成する中で浦戸諸島の島民の方々の魅力にどんどん引き込まれていき、浦戸諸島が自分自身にとって欠かせない場所になりました。私たち学生に優しく声をかけて下さる島民の方々の姿はとても温かく、浦戸諸島の魅力は島民の方々の温かさであると強く感じました。「ぼかぼか浦戸」を手にとって下さる方の心が温かくなり、浦戸諸島の活性化に少しでも繋がることを願っています。ご協力頂いた皆様、ありがとうございました。

このプロジェクト及び冊子制作は、宮城大学の講義
”コミュニティ・プランナーフィールドワーク演習”の一環として行われました。

＼ アンケートにご協力ください ＼

「ぼかぼか浦戸」を読んでくださり、ありがとうございました。
浦戸諸島や本誌について、右のQRからご入力をお願いいたします。
アンケート結果はプロジェクトの報告資料に使用させていただきます。



ぼかぼか浦戸

2023年12月発行

【発行元】
宮城大学
2023年度 CP フィールドワーク演習
チームピー

【監修】
宮城大学 事業構想学群 友瀧貴之

【企画・取材・編集】
宮城大学 事業構想学群
菊地彩華／酒井梨玖／高橋里緒／南晴日

【ご協力いただいた皆様】

浦戸諸島の皆様
内海信吉さん／鈴木保さん／鈴木正徳さん／土井まゆみさん／
鈴木和子さん／鈴木小夜子さん／青野友樹さん／川畑雪江さん／
内海せつこさん／川畑俊夫さん

塩釜市市民生活部浦戸振興課の皆様

